



海上保安庁

令和3年8月16日

福德岡ノ場にて新島を確認

8月15日、第三管区海上保安本部羽田航空基地所属航空機により観測を実施し、福德岡ノ場にて新島の存在を確認しました。なお、噴火は継続しており、付近には噴出した軽石等の浮遊物の存在も確認しています。

なお、新島の出現は昭和61年以来35年ぶりのこととなります。

詳細な観測結果は以下のとおりです。

[観測結果]

- ・新島：直径約1kmの馬蹄型の新島を確認。
- ・噴火：断続的な噴火を確認。
- ・浮遊物：蛇行しながら北西方向に約60km流れていた。

海上保安庁では航行警報を発出し、付近航行船舶に注意を呼びかけています。

当庁が実施した調査結果は、随時、海上保安庁海洋情報部HPの「海域火山データベース」にて公開しています。

Web アドレス：<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/list-2.htm>



図1 南硫黄島（左）と福徳岡ノ場の新島（右）（2021年8月15日 12:47撮影）

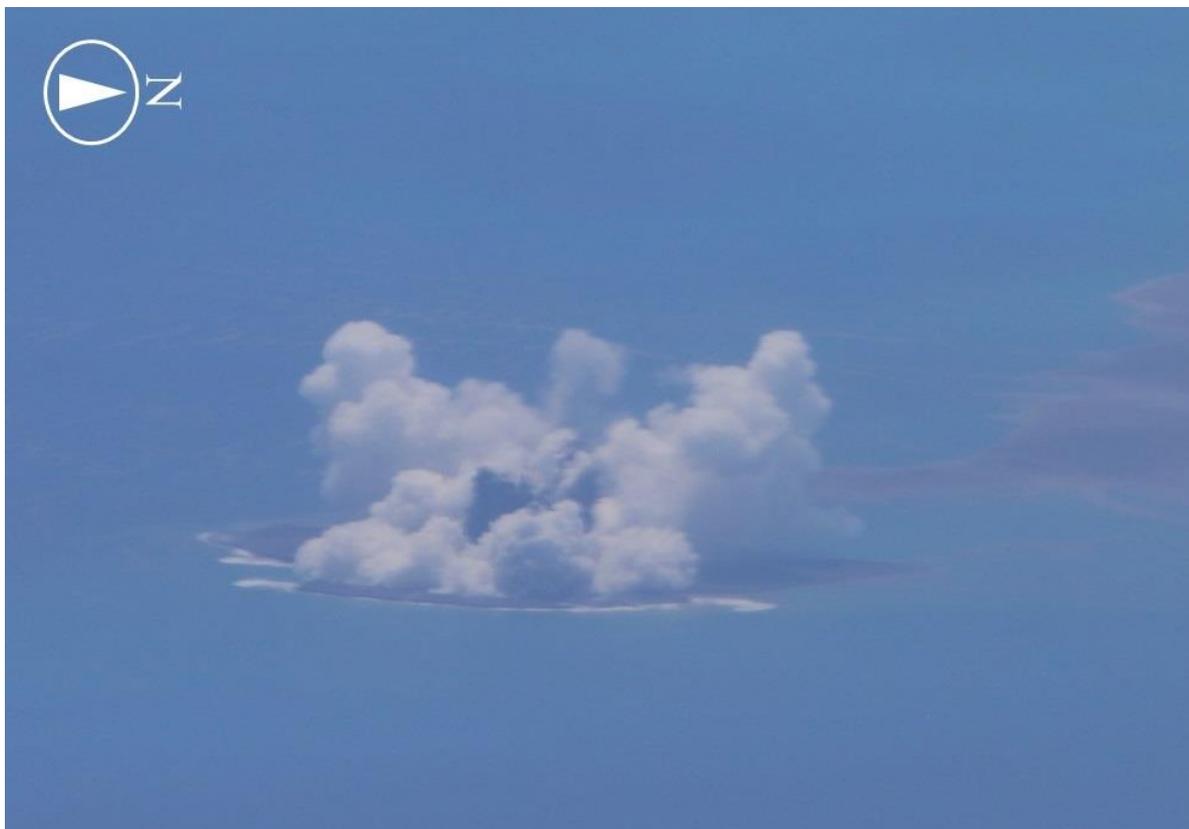


図2 噴火状況（2021年8月15日 12:51撮影）

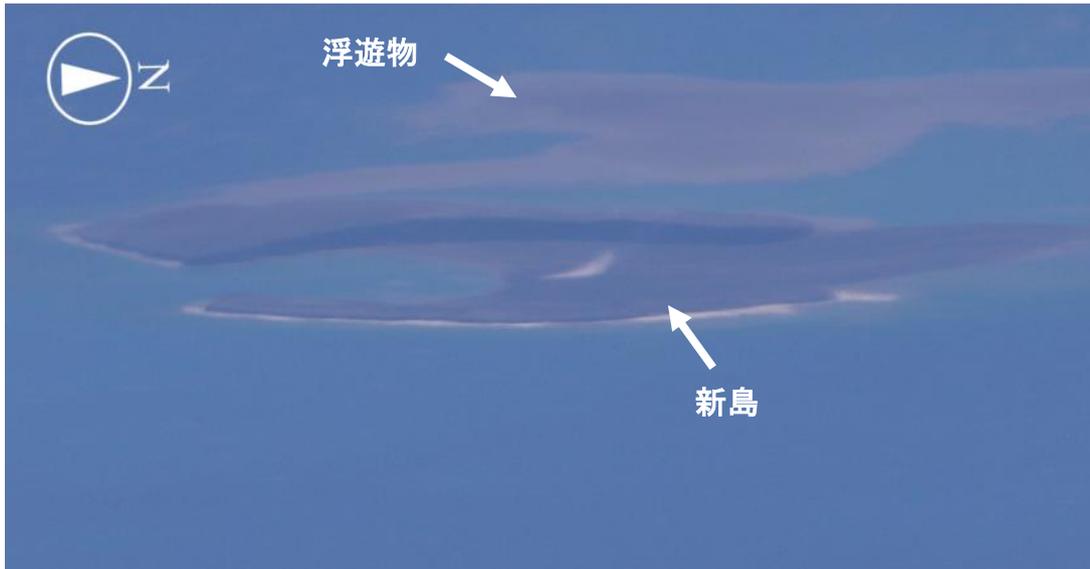
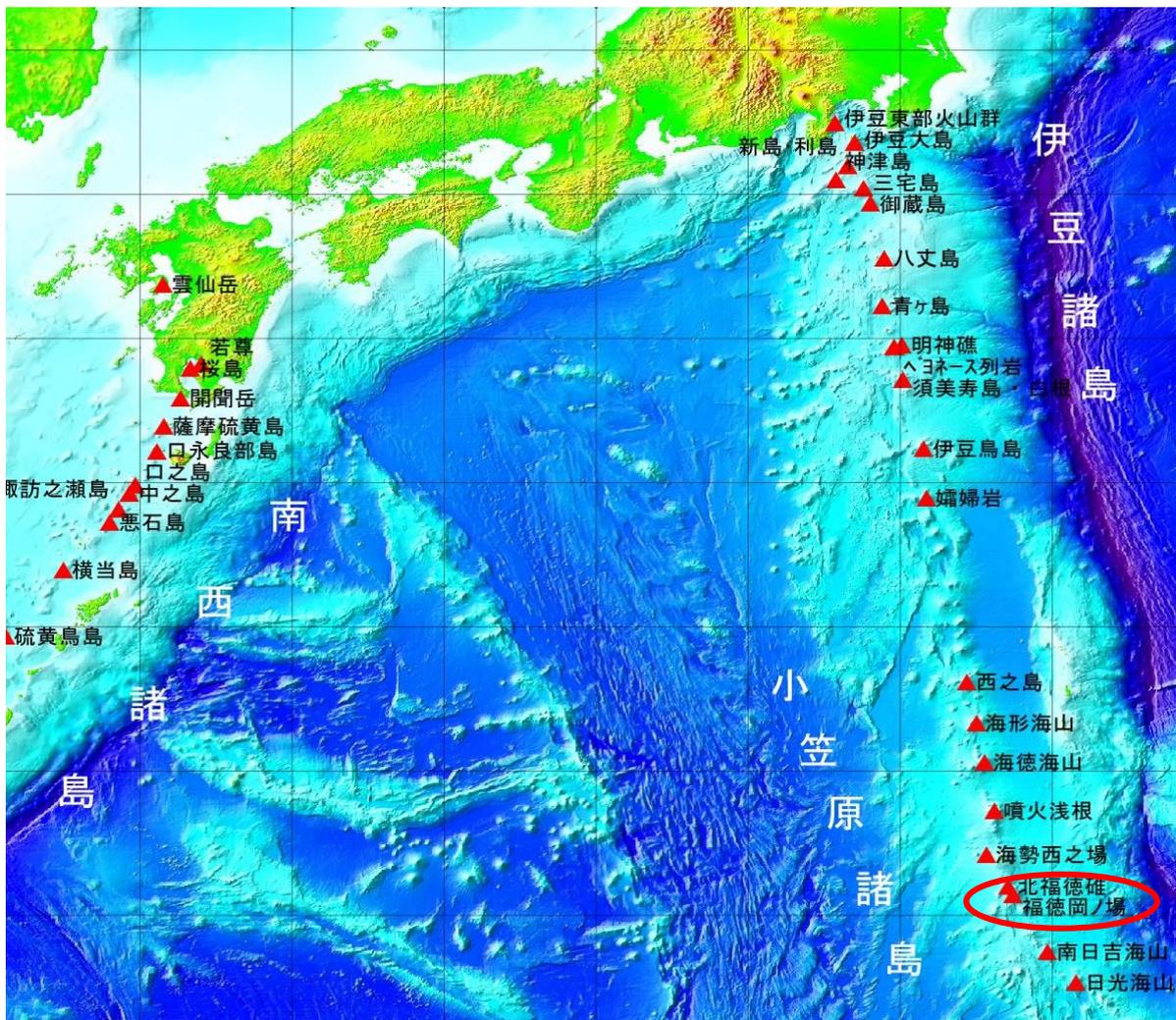


図3 新島の状況 (2021年8月15日 12:49撮影)

【福徳岡ノ場について】

東京から南に約 1,300 km、南硫黄島から北北東約 5 km の位置にあり、この付近の海底火山のうちでも、特にたびたび活動を繰り返している場所です。とりわけ、1904年、1914年及び1986年には、一時新島を形成しましたがいずれもその後海没しており、1986年の際は約2か月後には海没しています。また、同海域は海底での火山活動を示す変色水がしばしば認められています。



出典：海洋状況表示システム

Web アドレス：<https://www.msil.go.jp/>